

— 内照式看板の燃焼実験結果について —

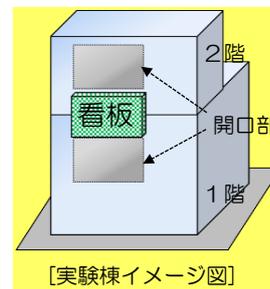
《 東京消防庁 》

◇ 建物上下階の外壁開口部間に設置する内照式看板を施工する方へ

屋外広告物には、設置場所や種類、形状、施工方法、材質等、様々なものがありますが東京消防庁では、外部有識者を交えた検討会を設置し「建物上下階の外壁開口部間に設置する内照式看板」の防火安全性について検討を行いました。

検討会では、①アクリル製、②不燃製品、③防災製品、3種類の看板が、その材質や施工方法の違いによって、どのように燃焼するのか、燃焼時間が約3分間となる火源を設定した実験により検証しました。

実際の火災においては通常、一定時間以上の燃焼が継続することが考えられますがこれらの設定条件のもと、東京消防庁消防技術安全所において燃焼実験を行った結果は、下表のとおりです。



	実験前	実験後	仕様	結果
① 〔アクリル製 フレームなし〕 〔隙間なし〕			スチール製フレームにアクリル板が隙間なく施工されている。	広告面が炭化したがアクリル板は燃焼しない。
② 〔アクリル製 フレームあり〕 〔隙間あり〕			スチール製フレームに隙間がありアクリル板の断面が一部露出している。	アクリル板に着火し燃焼した。
③ 〔不燃製品〕 FFシート			アルミ製フレーム	広告面が炭化したがFFシートは燃焼しない。
④ 〔防災製品〕 FFシート			アルミ製フレーム	FFシートに着火し燃焼するが炎が小さく燃焼時間も短かった。

この実験結果を踏まえ、内照式看板の防火安全性の確保について検討を行い、施工や点検における推奨事項を次のとおりまとめましたのでお知らせします。

◇ 内照式看板の防火安全性に関する推奨事項

1 アクリル製内照式看板の適切な施工

広告面にアクリル板を使用する場合、アクリル板の断面がフレームから露出していたり、外壁とフレームとの間に隙間が生じていると、アクリル板が火災による熱の影響を受けやすくなるため、これらの隙間が生じないように適切に施工してください。

2 不燃製品・防災製品FFシートの使用

広告面のFFシートは、火災による熱の影響を受けてもすぐに着火しづらい不燃製品や、着火しても燃焼が継続しづらい防災製品を努めて使用するようにしてください。

3 防火の観点を加えた点検・維持管理

経年劣化等によりフレームや建物外壁間に隙間が生じていると、内照式看板の内部が下階からの火災による熱の影響を受けやすくなることから、隙間が生じていないかの点検・維持管理を行ってください。